

奥多摩-三条の湯山行 報告書



【山域】山梨県、奥多摩

【場所】三条の湯

【行動日】平成30年11月3日～4日

【参加者】C L 鶴田、S L 菅井、寺崎、尾崎、会員外3名

【行程】

11/3 11:05 鴨沢西BS-11:25 お祭り登山口-13:50 後山林道終点-14:40 三条の湯

11/4 6:50 三条の湯-9:15 サヲウラ峠-13:00 親川BS

【内容】

今回は千葉県連の交流山行ということで奥多摩三条の湯に行ってきました。出発当日の朝、テレビでは「奥多摩の標高1000m付近が紅葉の見頃を迎えています。」とアナウンスが流れ、言わずもがな紅葉狩りへの期待がグッと膨らんでいました。午前8時、メンバーが新宿駅のホームで顔合わせを済ませ、最後に他会のF会長が合流。Fさんはとてもグルメなお方で「美味しそうな店が沢山あるからよ。」と出発前に駅で美味しそうな物を沢山買込まれていました。



【出発の鴨沢西BS】



【青梅街道の車道から】

しばらくして新宿駅発「ホリデー快速あきがわ・おくたま」に乗車。このホリデー快速は拝島駅を起点とし青梅線と五日市線に接続し、新宿から乗り換えなしで奥多摩駅に到着することが出来ます。到着して間もなく、予定より1つ前のバスが出発するという。「善は急げ。」と鴨沢西BS行きのバスに慌ただしく乗り込み、出発。バスに揺られること約40分、終点に到着する。今回はこの鴨沢西BSを出発地として、11:25、歩き始めました。



【お祭り登山口】



【歩きやすい林道】

青梅街道の車道からは紅葉で色付き始めた奥多摩の溪谷が晴天の日光に照らされて美しく瞬いている。休業しているお祭り山荘のすぐ横に「お祭り登山口」があり、ここから本格的な登山が開始される。と思いきや、お祭り登山口からの道からは車が一台ほどゆうに通れる幅員の広い林道となる。紅葉で色づく奥多摩の溪谷を横目に見ながら、13:50、ようやく後山林道の終点に辿り着く。ここからは本格的な登山道となるが、アップダウンは比較的穏やかで、登山道の補習もしっかりされており、歩きにくい箇所は全くなく、紅葉真っ盛りの中、気持ち良いハイクを楽しむことができた。もう少しこの気持ち良いハイクを楽しみたいと思っていたも束の間、林道を抜けてから約30分後、三条の湯テント場に到着。



【三条の湯前で集合写真】

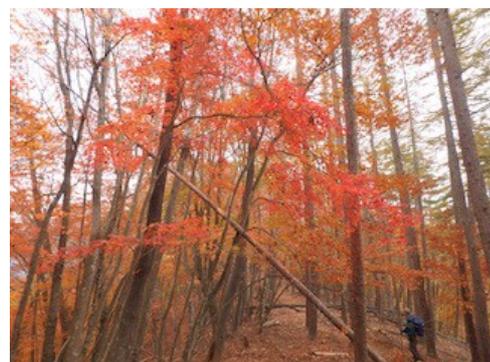


【紅葉とSさん】

三条の湯は雲取山山麓の沢の中にひっそりと佇むとても趣のある山小屋で、素晴らしい入浴も楽しむことが出来る。夕食前にメンバー全員で宴会を行い、その後、山小屋での美味しい夕食に舌鼓を打ちつつ、18:30に就寝。5:00に起床し、無事準備を済ませた一行は、6:50に三条の湯を出発。本日のメイン「天平（でんでい）尾根」を目指す。ピークを迎えた紅葉が凄まじい遮光の朝日に照らされ、金色のように光っている。地面には登山道を覆い隠す程の落ち葉が広がっており、歩く旅に「ぎー、ぎー」と音を立てる。誰もいない静寂の中、落ち葉の擦れる音にTeさんも思わず「良い音ね。」と一言。山は秋の一幕の情緒を私達に感じさせてくれました。



【紅葉とSさん その2】



【大きなもみじが立派】

出発してから2時間経つと飛龍山への分岐となる「サヲウラ峠（サオラ峠）」に到着。ここでしばしのコーヒブレイクをする。山で頂くコーヒーもまた格別で、山とコーヒーとSさんの心遣いに感謝。

サヲウラ峠から続く天平尾根もまた素晴らしい尾根で、Tuさんが「一番好きな道。」というのも納得。東側斜面は紅葉で真っ赤に彩られ、白樺やブナ、ミズナラなど樹木も豊富、一つの登山道で様々な風景と植生を楽しむことが出来、そこは自然の中にひっそりと佇む極楽のようだった。メンバーは「ここで自給自足の隠遁生活も悪くないね。どう？」と本気なのか、冗談なのか、それでも本気に聞こえてしまう程、うっとりとしてしまう情景がその尾根には広がっていた。



【落ち葉の上を歩く】



【歩きやすい天平尾根】



【いくつもの沢を越える】

尾根の最終地点では集落の跡地がある。今でも電線や水道管の跡があり、数十年前にはこの土地にも人が住んでいたと気づかせてくれて、昔この土地に暮らしていた人達に思いを馳せた。それら集落跡地を抜けるとゴールの親川BSに到着。

今回は経験豊富なTuさん、Sさん、Teさんのお陰で山のまた新しい楽しみ方を教えて頂きました。他会の方々にも美味しいお酒やおつまみを頂き、終始紅葉も素晴らしく、最高の週末を過ごすことができました。ありがとうございました。

(文章 尾崎)